

オーガスタンの まなざし



主教 小林 尚明

神戸聖ヨハネ教会巡回

10月21日(日)ヨハネ教会の聖餐式に出席しました。司式は藤井尚人司祭、説教を担当しましたが、奏楽は司祭の奥様、サーバーはご子息、献金係もお嬢様でした。聖公会は家族的な教会と言われますが、司祭家族の礼拝奉仕に頭が下がります。

昼食を共にして

礼拝後、教区でも美味しいと評判のおうどんと巻き寿司、いなり寿司と信徒お手製のシューマイを頂きました。主教になって一年の感想や心に残った巡回、教区の苦しい状況(今年度の牧会資金援助金は、約640万円、来年度は約1,000万円)などのお話もしました。びっくりな質問もあり、楽しい時間を過ごしました。

信徒の方の質問

昼食後、教会委員会に出席するため席について開会

を待っていますと一人の婦人から質問がありました。「教区の厳しい状況の中で」私は何をすればいいでしょうか。「私は」信徒の皆さんが喜びに満ちた信仰生活をされていけば、それが一番よい証しになります。そして私たちの周りには問題を抱えておられる方、不安の中におられる方がいると思えます。そうした人たちにあなたが「大丈夫よ、私が神様にお祈りしてあげるから大丈夫」と励ましてあげられれば百点ではないですか」とお答えしました。また別の男性からは「教区の教勢回復の」打開策はありますか」との質問に、色々な事例をあげてお話ししましたが、「問題は私たちが種を蒔いて、いくら無駄になる種があっても、必ず最後には、神様の祝福を頂いて、30倍、60倍、1000倍の収穫があると信じているかどうか。私には必ずなると信じています。敗戦処理主教になったつもりはありません」とお答えしました。するとその方は「主教があきらめていないことが分かって、少し安心しました」と笑顔で答えてくださいました。

問題は沢山あります。自分の力ではなく、神様の導きを頂いて進んで行きましょう。(神戸教区主教)

「霊操」に参加して

9月25日(火)から9日間、広島市郊外の長東黙想の家(イエズス会聖ヨハネ修道院・西日本霊性センター)にて行われた「霊操」に参加させて頂きました。

「霊操」とは余り聞きなれない言葉ですが、内容は黙想会です。その名称には身体を整える訓練として体操があるように、霊魂を整える訓練という意味が込められています。イエズス会創始者である聖イグナチウス・ロヨラが自分自身の心や魂の動きを深く見つめながら体系的に整えた黙想方法とのことです。



黙想指導は清水弘神父(イエズス会士、カトリック益田教会・カトリック浜田教会神父)がしてくださいました。今では、黙想会中の指導者のことを「黙想指導者」とは呼ばず、「同伴者」と呼ぶそうです。本来は30日間のプログラムですが、30日間でも9日間でも、4つのテーマを順にたどる形で進められます。清水神父は「1. 罪の究明、2. イエスの公生涯、3. 十字架、4. 復活」と説明されました。

ました。講話後、自室や聖堂、また境内を巡って黙想し、そして気付いたことなどを「同伴者」と対話しながらより確かにしていくという進み方でした。今回、黙想のために9日間という日常生活とは異なる時間を与えられたことは大きな恵みでした。大切な気づきを得たというまでには至りませんでした。「何が本当に大切なのか」という思いを巡らした。講話後、自室や聖堂、また境内を巡って黙想し、そして気付いたことなどを「同伴者」と対話しながらより確かにしていくという進み方でした。今回、黙想のために9日間という日常生活とは異なる時間を与えられたことは大きな恵みでした。大切な気づきを得たというまでには至りませんでした。「何が本当に大切なのか」という思いを巡らした。講話後、自室や聖堂、また境内を巡って黙想し、そして気付いたことなどを「同伴者」と対話しながらより確かにしていくという進み方でした。



司祭 小南 晃
神戸昇天教会牧師